

Express5800/MW300a,MW500a,MW500b
(N8100-800,900,902)
パッチ適用手順書

本書は、Express5800/MW300a,MW500a,MW500b(N8100-800,N8100-900,N8100-902)の運用/管理者を対象にした、パッチ適用に関する手順書です。
(Management Consoleの使用方法は、マニュアルなどをご覧ください)

2004/9/28 第3版

NEC

目次

・パッチ適用の基本手順	3
・アップデートモジュール適用時の注意・制限事項	4
・オンラインアップデートでの適用方法	6
・オンラインアップデート以外での適用方法	12
・参考資料		
バックアップ手順	16
バックアップ例1 : Windowsマシンへの定期バックアップ	17
バックアップ例2 : Windowsマシンへの即時バックアップ	19
バックアップ例3 : テープデバイス (DAT) への定期バックアップ	21
バックアップ例4 : テープデバイス (DAT) への即時バックアップ	23

パッチ適用の基本手順

環境保存(バックアップ)

```
graph TD; A[環境保存(バックアップ)] --> B[オンラインアップデートでの適用]; A --> C[オンラインアップデート以外での適用];
```

オンラインアップデート
での適用

オンラインアップデート
以外での適用

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(1/2)

(1)共通の注意、制限事項

・アップデートモジュールは、必ず、公開された順番で適用してください。

お使いの機種により、適用できるアップデートモジュールが異なります。
下記の表から該当する機種に対応したアップデートを適用して下さい。

機種名		セキュリティアップデート	WBMCアップデート
MW500b		Rel 1.3 から適用	Ver 1.11 から適用
MW500a		Rel 1.0 から適用	Ver 1.01 から適用
MW300a	WBMCのバージョンが 1.10 の場合	Rel 1.3 から適用	Ver 1.11 から適用
	WBMCのバージョンが 1.00 の場合	Rel 1.0 から適用	Ver 1.01 から適用

※MW300a は、初期導入後のWBMCのバージョンにより、適用可能なアップデートが異なります。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(2/2)

(2)ロードバランスクラスタ構成での注意・制限事項

- ・マスタ、スレーブの順で、すべての本装置へ適用して下さい。
- ・マスタへの適用前に、マスタのManagement Consoleに接続し、システム>ロードバランス 画面にて、ミラーリング間隔に "NO"を設定して下さい。
- ・適用前に、サービス画面の[停止]ボタンにて、各種サービスを停止して下さい。
※TELNET、FTPサービス以外のサービスについては、再起動によりもとの起動状態に戻ります。
- ・適用後に、システムの再起動を行って下さい。
※スレーブの再起動は、マスタが起動した状態で行って下さい。
- ・すべての本装置へアップデートモジュールを適用後、システム>ロードバランス画面にて、ミラーリング間隔を設定して下さい。

(3)フェイルオーバークラスタ構成での注意・制限事項

- ・すべての本装置について稼動サーバに切り替えた状態で適用して下さい。
 - ・オンラインアップデートで適用する場合は、適用後に、稼動サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。
コマンドで適用する場合は、全ての本装置で適用後に、システムの再起動を行ってください。
- どちらの場合も、CLUSTERPROマネージャから再起動を行って下さい。

オンラインアップデートでの適用(1/6)

フェイルオーバークラスタ構成でのオンラインアップデート適用時の**注意点**

- ・CLUSTERPRO のインストール時に登録した、“stop.bat”を最新にして下さい。
最新の場合は、“stop.bat”の先頭が以下のようになっています。

```
-----  
#*****  
##          STOP.BAT (Ver2.0)          *  
#*****  
-----
```

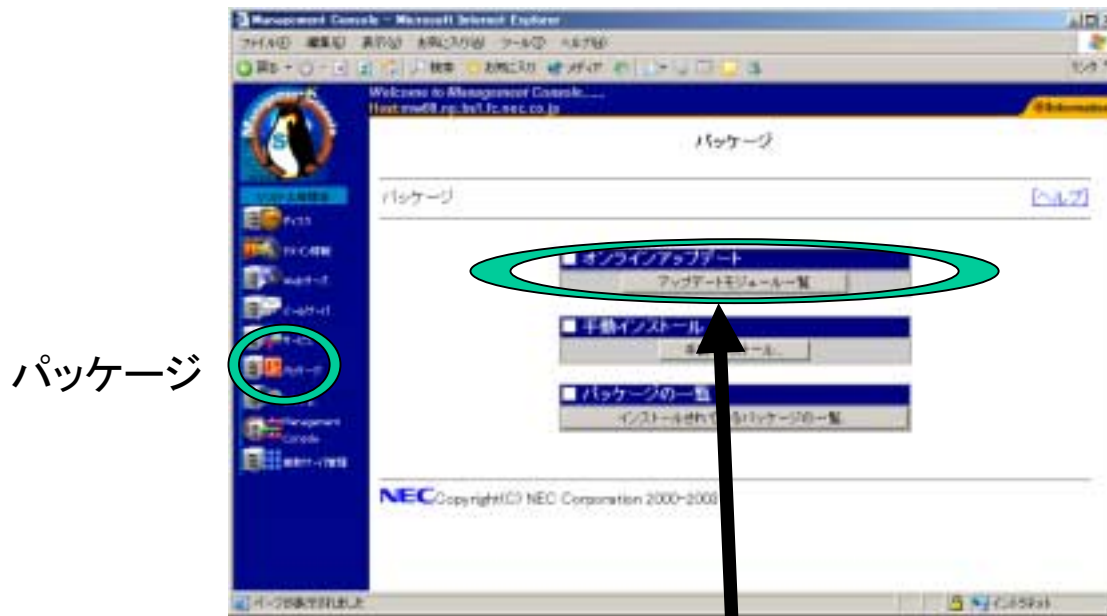
Ver2.0 と記載されていない場合は、古い”stop.bat”です。

古い場合には、CLUSTERPRO の製品ホームページから、新しい”stop.bat”をダウンロードして、古い”stop.bat”と置換して下さい。

置換方法については、CLUSTERPRO の「CLUSTERPRO システム構築ガイド GUI リファレンス」を参照して行って下さい。

オンラインアップデートでの適用(2/6)

適用可能なアップデートモジュールの一覧を確認します。
Management Console でパッケージをクリックし、[オンラインアップデート]の[アップデートモジュール一覧]ボタンをクリックして下さい。

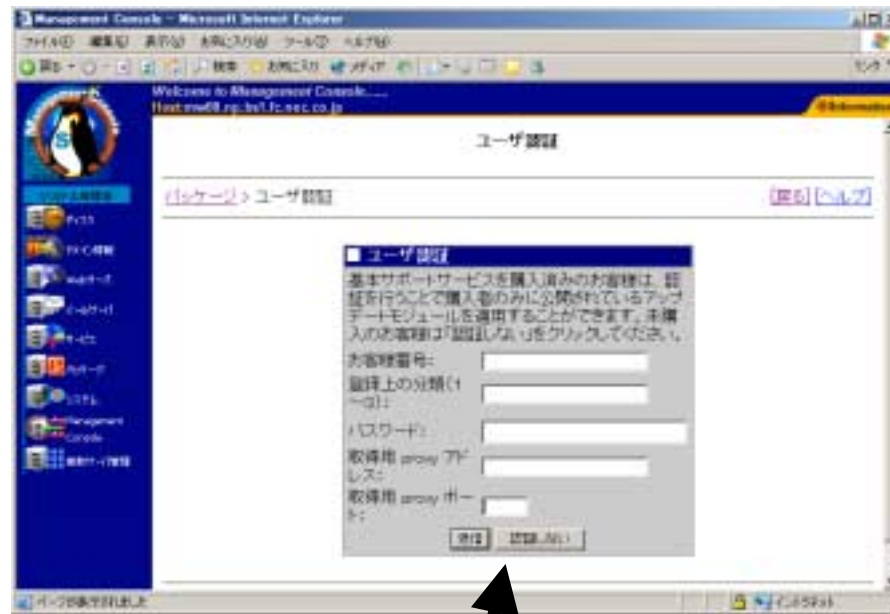


[アップデートモジュール一覧]
ボタンをクリック

オンラインアップデートでの適用(3/6)

初めてオンラインアップデートを利用する場合、また公開モジュールの最新情報を取得する場合は基本サポートサービスのサポート契約の認証情報の入力が必要です。

セキュリティーアップデートに関してはサポート非契約者にも提供されます。この場合は[認証しない]ボタンを押してください。



認証情報を入力して[送信]、
もしくは[認証しない]

オンラインアップデートでの適用(4/6)

ネットワーク経由で取得した公開モジュール情報から適用可能なアップデートモジュールの一覧を表示します。未適用のモジュールには「適用」欄に「未」と表示されます。

適用したいモジュールの[適用]ボタンを押すと適用確認画面が表示されます。

最終更新日付: 2004/09/07

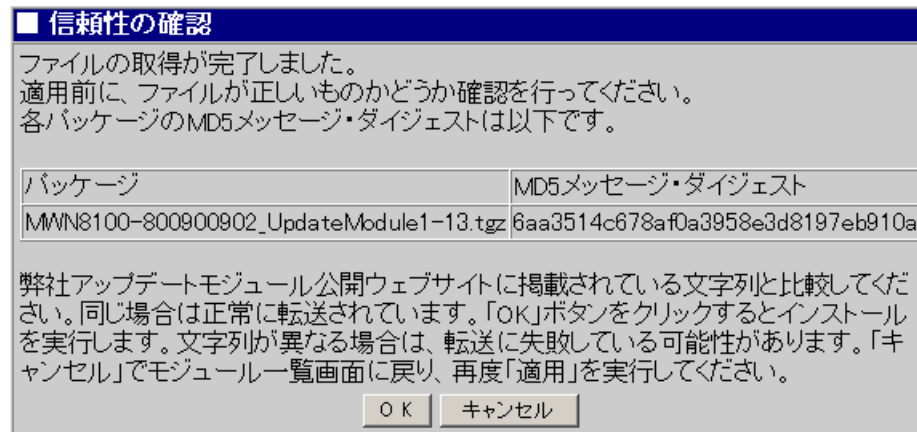
最新情報に更新

■ アップデートモジュール一覧				
日付	概要	パッケージ名	適用	操作
2004/7/13	Express5800/MM300a(N8100-800)、 Express5800/MM500a(N8100-900)、 Express5800/MM500b(N8100-902)アップデート モジュール Rel 1.11をインストールします	N8100-800_N8100-900_N8100-902-UpdateModule-1.11	未	<input type="button" value="適用"/>
2004/8/25	Express5800/MM300a(N8100-800)、 Express5800/MM500a(N8100-900)、 Express5800/MM500b(N8100-902)アップデート モジュール Rel 1.12をインストールします	N8100-800_N8100-900_N8100-902-UpdateModule-1.12	未	<input type="button" value="適用"/>
2004/9/6	Express5800/MM300a(N8100-800)、 Express5800/MM500a(N8100-900)、 Express5800/MM500b(N8100-902)アップデート モジュール Rel 1.13をインストールします	N8100-800_N8100-900_N8100-902-UpdateModule-1.13	未	<input type="button" value="適用"/>

適用したいモジュールの
[適用]ボタンをクリック

オンラインアップデートでの適用(5/6)

ネットワーク経由で取得した公開モジュールのパッケージの信頼性の確認を行ってください。アップデートモジュール公開サイトに掲載されているメッセージダイジェスト文字列と画面に表示されるメッセージダイジェスト文字列が一致する事を必ず確認してから[OK]ボタンを押してください。[OK]ボタンを押すとアップデートモジュールが実際に適用されます。

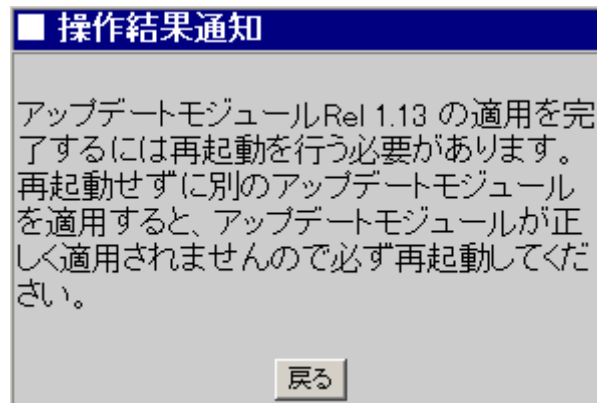


MD5 文字列を確認してから
[OK]ボタンをクリック

オンラインアップデートでの適用(6/6)

[戻る]ボタンを押して下さい。アップデートモジュールは、システムを再起動することにより適用されます。Management Consoleからシステムを再起動して下さい。フェイルオーバー構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO マネージャの「サーバシャットダウン」でシステムを再起動して下さい。

「サーバシャットダウン」の方法については、CLUSTERPROの「CLUSTERPRO システム構築ガイド GUI リファレンス」を参照して下さい。



[戻る]ボタンをクリック

オンラインアップデート以外での適用(1/3)

オンラインアップデートで適用されない場合は、適用するアップデートモジュールを、本装置にダウンロードし、コマンドを実行して適用します。

※ダウンロードしたアップデートモジュールが本装置の /tmp 配下にあるものとします。/tmp 以外にアップデートモジュールを置いた場合は、実際のディレクトリに読み替えて下さい。

(1) 本装置に telnet します(login 名 : admin)。

ログイン後、su コマンドで root 権限を取得します。

ダウンロードしたアップデートモジュールの形式により、以後の手順が変わります。

以下を参照し、適切な手順へお進み下さい。

・tgz 形式(セキュリティアップデート、WBMC アップデート)の場合

→ (2) へ進んで下さい。

・rpm 形式の場合(WBMC アップデート)

→ (4) へ進んで下さい。

(2) /tmp ディレクトリにて以下のコマンドを実行し、アップデートモジュールを解凍します。

```
# tar -xzf アップデートモジュールファイル
```

オンラインアップデート以外での適用(2/3)

(3) /tmp ディレクトリに以下のファイルが作成されます。

- MailWebServer_UpdateModule.pl
- InstallFileList.txt
- MailWebServer_UpdateRPM.tgz
- onlineupdate-1.x.sh (x は、バージョンによって異なります)

(4) サービスの停止

Management Console の[サービス]画面から telnet 以外のすべてのサービスを停止させます。

(5) アップデートモジュールの適用

/tmp ディレクトリにて以下のコマンドを実行します。

- tgz 形式の場合
perl MailWebServer_UpdateModule.pl
- rpm 形式の場合
rpm -Uvh --nodeps RPMパッケージ名

※コマンドの実行は、telnet から root 権限で行って下さい。
コマンドを実行するとパッケージがインストールされます。

オンラインアップデート以外での適用(3/3)

(6) システムの再起動

システムを再起動します。

フェイルオーバークラスタの場合は、必ず、CLUSTERPRO マネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行って下さい。

「サーバシャットダウン」の方法については、CLUSTERPRO の「CLUSTERPRO システム構築ガイド GUI リファレンス」を参照して下さい。

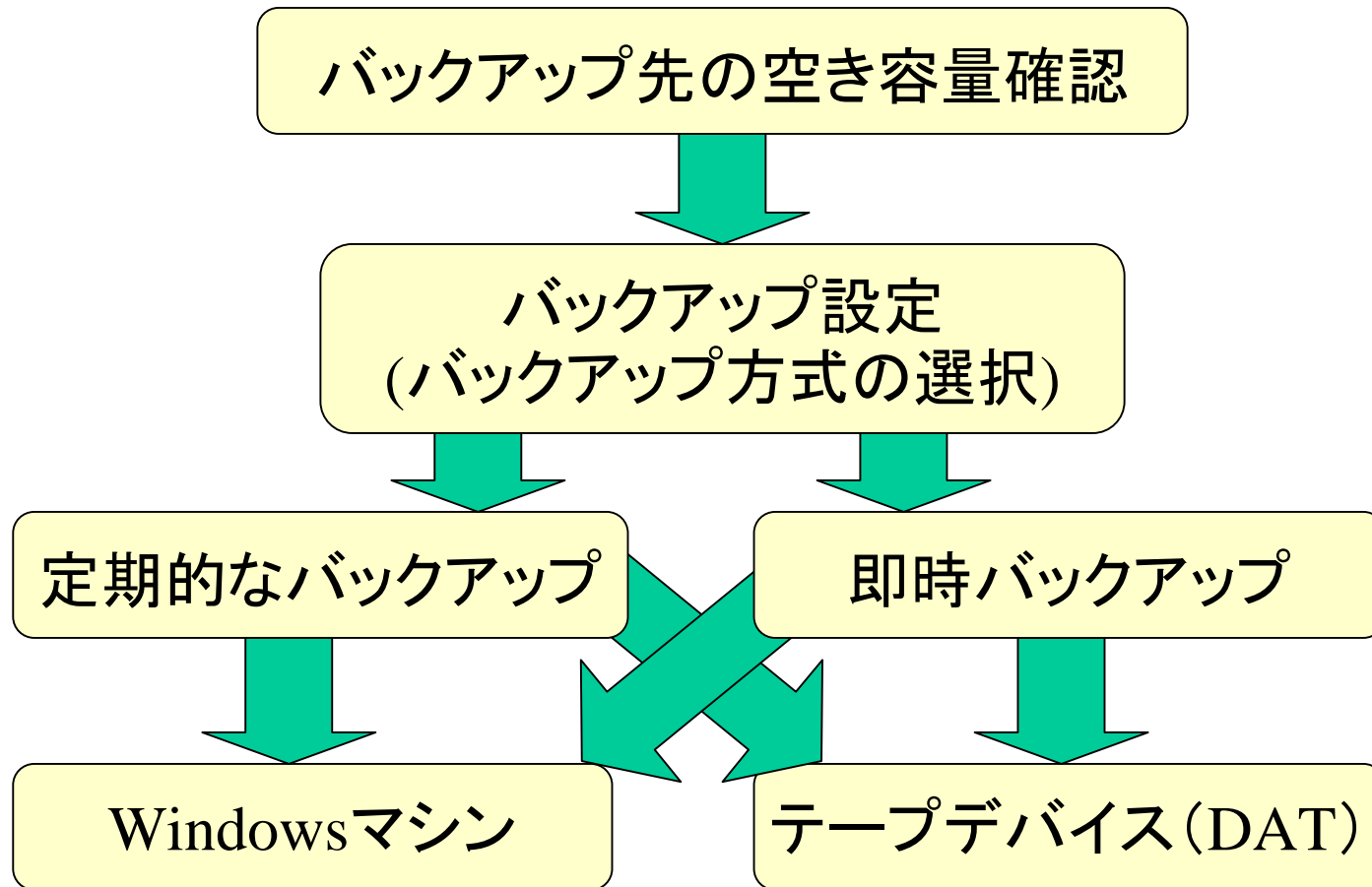
(7) サービスの起動

Management Console の[サービス]画面からサービスを必要に応じて起動します。

参考資料

アップデートモジュールを適用する前に、バックアップを取って頂く必要があります。次ページ以降を参考に、運用形態に合った方法でバックアップをして下さい。バックアップについては、ユーザーズガイド、Management Console のヘルプにも詳しい説明がございますので、本手順書と合わせて参照して下さい。

バックアップ手順



バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(1/2)

1. Windows マシンの共有フォルダの作成

例: ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc」上に「user」というユーザーを用意し、「share」という共有フォルダを作成する。

2. Management Consoleによる設定(1/2)

Management Consoleで以下の順にクリックしてください。



①
システム

②
バックアップ/リストア

③
編集

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ			バックアップしない
テープリストア			

バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(2/2)

2. Management Consoleによる設定(2/2)

以下の内容を入力してください。

■世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00にバックアップをとる。バックアップファイルは5世代分残す。

■Windowsマシンの設定

「Samba」をチェックし、Windowsマシンに接続するための設定を行う。

例: ワークグループ名「workgroup」、マシン名「winpc」、共有名「share」、ユーザ名「user」、パスワード「*****」

■ 編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

世代: 5

スケジュール: 毎日
 毎週 月曜日
 毎月 1 日
 バックアップしない

時刻: 9 時 0 分にバックアップ

バックアップ方式:

ローカルディスクディレクトリ: /var/backup

Samba

ワークグループ名: workgroup (NTドメイン名)

Windowsマシン名: winpc

共有名: share

ユーザ名: user

パスワード: *****

設定 即実行

最後に[設定]ボタンをクリック

バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(1/2)

即時バックアップは、定期バックアップの操作とほぼ同じです。異なる点は、Management Consoleの設定中以下の画面で「世代・スケジュール」の設定を行わないこと、最後に「即実行」ボタンをクリックすることです。

世代・スケジュールを
設定しない

■ 編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

世代: 5

スケジュール:

- 毎日
- 毎週 日曜日
- 毎月 1 日
- バックアップしない

時刻: 0 時 0 分にバックアップ

バックアップ方式:

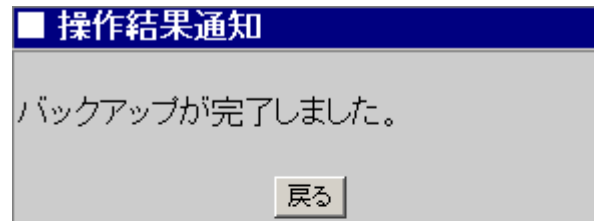
- ローカルディスクディレクトリ: /var/backup
- Samba
 - ワークグループ名: workgroup (NTドメイン名)
 - Windowsマシン名: winpc
 - 共有名: share
 - ユーザ名: user
 - パスワード:

設定 即実行

最後に「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(2/2)

「即実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



注意

「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でバックアップを行う必要があります。

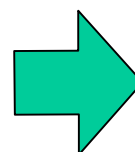
バックアップ例3: テープデバイス(DAT)への定期バックアップ(1/2)

テープデバイス(DAT)が正しく接続されていることを確認して、Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



①
システム

②
バックアップ/リストア



■ バックアップ/リストア一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

③
テープバックアップ

バックアップ例3: テープデバイス(DAT)への定期バックアップ(2/2)

以下の内容を入力してください。

テープデバイス名を指定する

■ テープデバイス

デバイス名
/dev/nst0

設定

■ 世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。

■ バックアップ

スケジュール: 毎日
 毎週 月曜日
 毎月 日
 バックアップしない

時刻: 9 時 0 分にバックアップ

バックアップ対象

- システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
 - システム、各種サーバの設定ファイル
 - ユーザのホームディレクトリ
 - メールスプール
 - メーリングリスト
- 各種ログファイル
- ディレクトリ指定

設定 即実行

ここをチェックする

必要であればチェックする

最後に「設定」ボタンをクリック

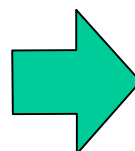
バックアップ例4: テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(1/3)

テープデバイス(DAT)が正しく接続されていることを確認して、Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



①
システム

②
バックアップ/リストア



バックアップ/リストア一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

③
テープバックアップ

バックアップ例4: テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(2/3)

バックアップを実行します。

テープデバイス名を指定する

■ テープデバイス

デバイス名

このみチェックすればよい

■ バックアップ

スケジュール: 毎日
 毎週
 毎月 日
 バックアップしない

時刻: 時 分にバックアップ

バックアップ対象

- システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
 - システム、各種サーバの設定ファイル
 - ユーザのホームディレクトリ
 - メールスプール
 - メーリングリスト
- 各種ログファイル
- ディレクトリ指定

必要であればチェックする

「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例4:テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(3/3)

「実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。

